

■ 「午未天中殺」はリーダーシップの星

唐代の算命学では、この天中殺のことを「北洛中殺」と呼んだ時期がありました。

北洛とは、「北洛師門」のことで、現在の天文学で使用されている学名は「フォーマルハウト」です。

「北洛師門」は中国占星術でいう「調舒星」のことで、「孤独」を意味する星ですが、午未天中殺の人にとって、その災いを取り除いてくれる守護神が「北洛師門」だと云われています。この星は孤独・孤高の意味を持っているだけに、午未天中殺に共通している性情が孤独であるわけです。しかし、孤独……といっても目に見える孤独ではありません。

精神の孤独であって、家族や身内などに恵まれていても家族と集団行動が出来にくい面をもっているのです

それも、表面的にはどのような人とでも合わせていけますが、ある面においては、自己の「カラ」の中へ閉じこもる様な傾向があるのです。

それはまた、人の支配下に入る事を嫌ったり、人生行程においても単独行動を好みます。

悪くすると一匹狼的存在になったりもしますが、非常に理性的な人物が多いという共通性を持っています。そのために、この天中殺になる人達の中には、学者、芸術家など常に何かを学び、何かを作り出さなければ落ち着かない……といったものがあり、習慣や創造の本能がじっとしてられない面を持っています。

それは、自分一人の世界の中ではよろこばしいことですが、集団の中では異端児的な立場に立たされることになります。また、理性がまさっているために、批判力や評論力が強く、時には理屈やさんの存在にもなるわけです。

辰巳天中殺の人の様に環境に強い面を持ちませんので、青少年より高い教養を積み重ねる必要があります。つまり、午未天中殺の人には感覚人間が少ないということでもあります。

常に理論と思考力がその根底にあって、理にあわない事に対して、人情や感覚で行動することは少ないのであります。

しかし、この天中殺の人が人情や感情で動くときは、自分自身から物事を切り離して行動しますので、そのときは実に損得抜き無の心情であるといえるでしょう。

このように、性格の源流にあるものが理性である為に、職業的な面でも理性・知性に支えられている世界で成功する者が多い様です。たとえば、教育者・学者・芸術(文学)・ジャーナリスト・医学、種々な方面の技術者等であります。

そこで、難しいのは集団と行動する場合であって、自分の「知」に対し相当な自負心があるために「自分こそは」というプライドあるのです。それが人生の最終バスに乗り遅れる結果とならぬよう心掛けてください。それも五十歳以降の人生には特にご用心……といえるでしょう。

算命学では、古来より午未天中殺のことを「巷間の哲人」と言い伝えられているのです。

■ 「北洛師門」(古い記録によりますと、昔、中国の都が「長安」にあったころ、北に出づる第二の門に「北洛師門」という名の門があって、南の空に輝く星にこの門の名前をつけた……と伝えられています)

■ 「フォーマルハウト」(フォーマルハウトは、南の魚座の口のところに白く輝いている1等星です。秋の夜、がらんとした南の空に、たった一つこの星が光っているのを見ていると、妙にさみしげな印象をうけるもので、日本では「南のひとつ星」とよんでいたそうです。)